

みんなに  
つなごう

# たすき

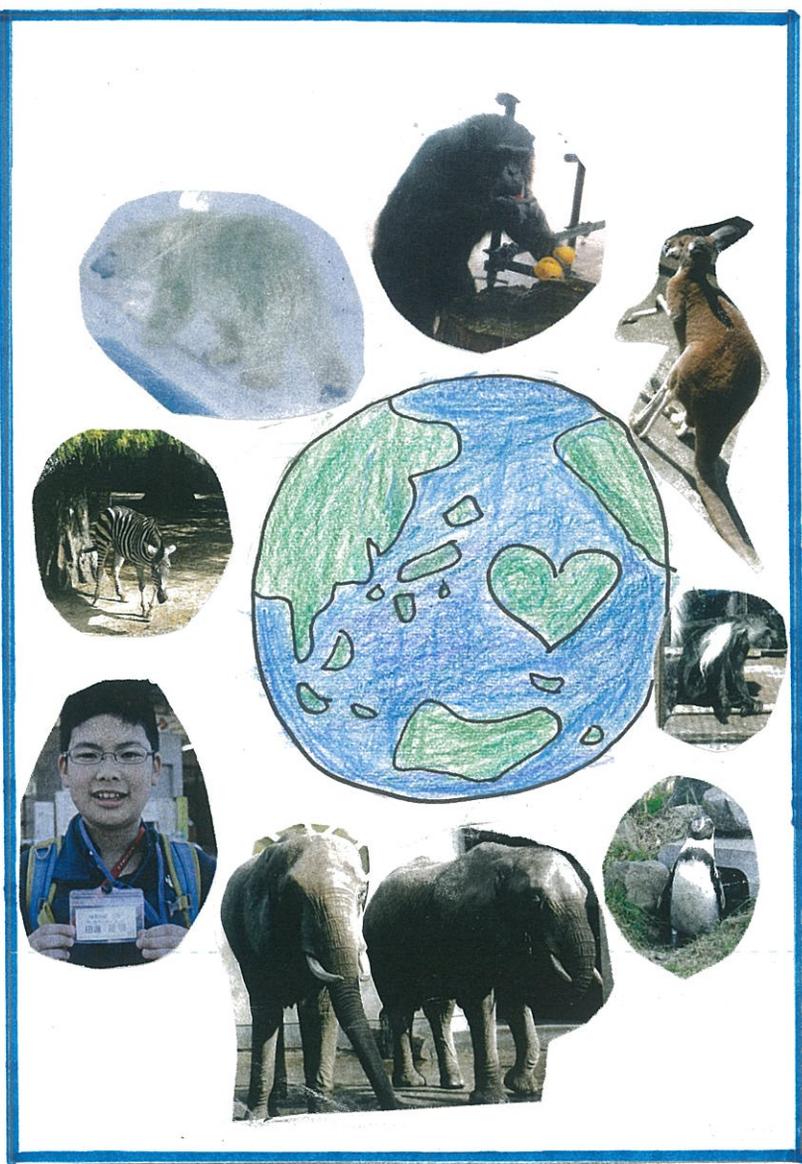
## 新聞 1

5年  
田邊龍司

ぼくらはみんな  
いきている



11月に日未来の動物園について考える  
ことも会議が熊本市動植物園で開かれま  
した。熊本地震で被害を受け復旧に取り  
組む様子、動物たちの様子を取材し、未  
来に向けた動物園のあり方を探しました。



熊本市動植物園  
心のケアと  
いのちの重さ



2016年4月に熊本地  
震があたりました。  
震度6強のゆれがあ  
り震度4以上は140  
回近くもありました  
た。人間だけではな  
く動物たちも地震の  
影響を受けました。  
霊長類は、特に被害  
が大きく不安な様子  
で食欲が落ち体調を  
くずしました。獣医  
師、飼育係の方々が  
安心をとりもどせる  
ように動物の心のケ  
アを大事にして元気  
をとりもどしてきました。

園では地震で被害に  
あった動物園だから  
こそ命の大切さを伝  
えたいと話されまし  
た。命の大切さを学  
ぶ場として休園中に  
移動された動物園を実  
施しました。小学校  
に動物たちと訪ねて  
ふれあうことで子ど  
もたちに笑顔がもど  
ったそうです。その  
子どもたちの笑顔に  
動物園の人たちも元  
気をもらったそうで  
す。動物も人も支え  
あっています。笑顔  
が笑顔をおんこ笑顔  
がふえていきます。

# たすき

## 新聞 2



新しい命発見



地割和そばニタンホ不

心臓のドキドキは、  
いのちのドキドキ



ぼくも動物とのホ  
れあいを体験しまし  
た。モルモットにエ  
サをあげたり、心臓  
の音を聞きました。  
モルモットの心音は  
とても速いスピード  
でした。体が小さく  
ても大きくても一生  
の間、心臓がうつ回  
数は、みんな同じ数  
と説明を聞いておど  
ろきました。モルモ  
ットの速い心音は、



※「終生飼養」とは？  
飼育している動物がその  
寿命を迎えるまで適切  
に飼育すること

一生懸命の命の音で  
す。小さなモルモッ  
トも大きなゾウも人  
も命の時間にかわり  
ないことを学びまし  
た。  
動物を飼うことは  
命を預かること。モ  
ルモットを飼う時も  
「終生飼養」。大事  
に一生、育てること  
も学びました。

大牟田市動物園  
動物の幸せを伝える



大牟田市動物園に  
は、熊本のユキヒヨ  
ウが避難しています。  
園では、動物の健康  
のために動物に協力  
してもらいながら行  
う訓練をしています。  
ユキヒヨウも訓練を  
重ね採血できるよう  
になっただろうです。  
駆血帯は食べても害  
のないようにウイン  
ナーの皮を使うそう  
です。動物と飼育員  
が安全で健康に過ご  
せるトレーニングの  
様子や動物達のいま  
いきました様子を見学して  
人気があります。

これからの  
動物園へ

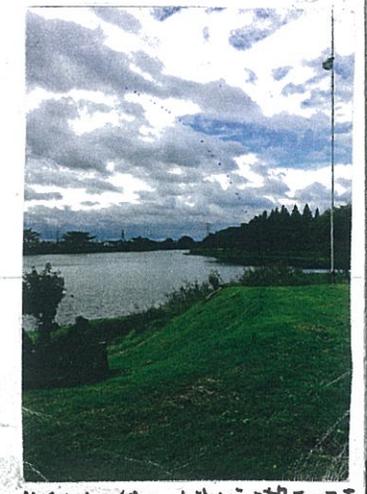


動物も人も生まれ  
のです。ぼくらは、  
みんないきています。  
これからの動物園は  
珍しい動物やかわい  
い動物を見るだけで  
はなく、動物の幸せ  
も考える場。命につ  
いて考える場。でも  
あると思いました。  
動物は野性となとを  
つなぐ「親善大使」とい  
う言葉が印象的でした。  
動物の目線になっ  
て動物園に行くた  
けでも感じ方がちが  
います。今もこれか  
ら動物園にはワクワク  
ワクワクがいっぱいです。

たすき新聞(番外編)

こんなふうになったらいいな

熊本市動植物園



サイクリングロードから湖を眺めついでに人もいました。

熊本市動植物園は、動物も植物も乗り物もある魅力のある園です。ぼくが一番おもしろいところは、下江津湖のすぐそばで水がとってもきれいなことですよ。沢山の魚や鳥が集っていました。ぼくも湖を見て生活しているし、湖を散歩している人もたくさん見ることができるとも魅力に感じました。まわりの自然と一体となった

いつまでもいたい動物園です。ぼくは動物園の中に湖の水をとりこんで船でまわられたらいいな。と考えていました。この会議で園長の岡崎さんが昔は園内の水路を利用して遊覧船があったと聞いて、おもしろく思いました。水をいかした熊本に行かなければ体験できない、見られない、感じられない動植物園をぼくは提案します。



私の考える未来の動物園は

±地±域の自然が感じられる

そのために次のアイデアを提案します

。動物園を±地±域の自然を別の場所とするのではなく  
同じ場所として観察できるように場所を作る  
帰るときに±地±域の自然を感じながら帰る  
道を作る

名前

田邊龍